

若者のUIJターン促進に向けた取組の現状

1 県外在住社会人のUIJターンの促進について

○ 現状

- ・ 移住者数 2,315 人 (2018 年)
- ・ 進学や就職を機に流出する若者が多い

※年齢別社会増減数

15 歳～19 歳	▲1,863 人	進学のため県外に流出
20 歳～24 歳	▲2,840 人	進学・就職のため県外に流出
25 歳～29 歳	▲318 人	就職・転職のため県外に流出
30 歳～34 歳	+287 人	転職・子育てのため UI ターン
35 歳～39 歳	+371 人	〃

○ 検討事業

令和 2 年度実施検討事業

『社会人を対象とした UIJ ターン促進強化事業』

- ・ 深刻な県内産業の人手不足の解消や「社会増減」をプラスに転じさせるため、都市部在住の第 2 新卒者を含む社会人をターゲットに県内企業への就業を促進します。
- ・ 多様な人材確保のため、企業の魅力発信力の向上や、都市部の副業人材の活用、リモートワークの導入など企業力の向上を目指します。

検討内容

- ・ 首都圏在住社会人向け UI 転職説明会の開催
- ・ 企業向け研修会の開催

○ 問題意識

- ・ 経済界、市町村等との協力体制が必須
- ・ 県外在住者に説明会を認知・参加してもらえるか
- ・ 研修会に多くの企業が参加してもらうためにはどうすべきか
- ・ 研修会のテーマについて、企業に価値ある、刺さるものはなにか

2 学生・社会人等への情報発信について

○ 現状

- ・ 大学生Uターン就職率 35.3% (2019年3月卒学生)
- ・ 移住者数 2,315人 (2018年)

○ 情報発信のまとめ

ウェブサイト名	目的	対象者	内容	課題
楽園信州	移住に関わる情報を幅広く発信	社会人 移住希望者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県や市町村主催イベントやセミナーに関する情報 ・ 移住前後の支援に関する情報 ・ 先輩移住者体験談 ・ 移住促進パンフレット、ムービー 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 仕事の情報が弱い ・ 住まいの情報が弱い ・ 市町村情報が全く掲載されていない市町村がある
Iターン信州	U・Iターン希望者と企業をマッチング メルマガ、HPを活用した情報提供	社会人 U・Iターン転職希望者(既卒)	<ul style="list-style-type: none"> ・ U・Iターン転職希望者が、職歴、勤務希望地などを登録 ・ 登録情報を県内企業が閲覧し、接触したい人材がいれば求人情報や会社情報を県庁経由で人材へ送付 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新卒就活生は対象外 ・ 就職決定については、登録者に委ねられていることから把握が困難
マッチングサイト	3大都市圏からの転職希望者向けに求人情報を提供	社会人 (東京・名古屋・大阪在住者)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 移住支援金対象企業の求人情報を掲載 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 求人掲載企業が少ない ・ サイトの認知度が低い
ジョブカフェ信州	ジョブカフェの各種サービス、イベント情報を提供	44歳以下の方 (学生含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・ ジョブカフェのサービス、イベント案内 ・ キャリアコンサルティングの予約 	ジョブカフェの情報発信における他部局との連携が不足
シューカツ NAGANO	インターンシップ・就活情報を提供 メルマガ、LINE@による発信	大学生等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生向け就活・インターンシップイベントを発信 ・ 企業情報(300社超掲載済み) ・ 公務員試験情報 ・ 若手社員の就活、生活体験談 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 求人情報がない ・ 生活情報、地域の魅力発信は未掲載 ・ 企業情報のさらなる掲載 ・ 公務員試験情報が全て掲載されていない

○ 問題意識

- ・ 県外で生活する学生や社会人に対してどのように効果的に発信するか
- ・ 長野県で働く・暮らす魅力を伝えるためにどのような情報を発信すべきか

3 こどもの頃に県内企業を知るキャリア教育の推進

○ 課題

- ・ 県外大学に進学後、県内企業に触れる機会が激減、身近な都市部の企業に就職
- ・ 県内の高校生の多くが県内企業、地域産業を知らないまま、県外に進学している

○ 事例紹介

- ・ 郷土愛プロジェクト（事務局 上伊那広域連合）
「キャリアフェス」：小中高校に、地域の企業や地域団体等が集まり、大人のキャリアから、生徒が「地域のたからもの（人、文化、産業、歴史等）」を発見する機会をつくる



実施事業一覧

「産学官協働」事業	「次世代育成」事業 (産学官協働型・伊那谷学の実践)		「学校支援」事業
キャリア教育産学官交流会 ○産学官の情報・意見交流の推進 ○上伊那全体の方向性の共有 ○年間PDCAサイクル実践 伊那谷人材育成ラボ ○キャリア教育・人材育成について自由な意見交換と研究	夢 大学 ○産学官協働型実践モデルづくり キャリアフェス ○より多くの生徒や企業・地域団体が参加できる仕組みづくり 伊那谷再発見 ○ふるさと学習・キャリア教育の発表、共有の場づくり 歴史・文化体感ツアー ○歴史や文化との学びの場づくり	子どもたちの未来応援団 ○次世代育成事業の現状把握 ○関係機関との連携、意見収集等 ○地域活動・課外活動等への支援 ○学校の枠組みを超えた連携支援 ○全国レベルへの挑戦を支援	伊 那 谷 学 ○信州学・伊那谷学の支援 ○上伊那校長会・教育会との連携 ○テキスト・教材の開発 (キャリアノート、くらしの歳時記) ○リーダー育成事業 コーディネート事業 ○産学官協働事業の推進・支援 (各団体に対して)

出典：郷土愛プロジェクト（上伊那広域連合）

○ 問題意識

- ・ 「郷土愛プロジェクト」の取組みを全県に広げることにはできないか
- ・ 広げるにあたって、経済界、教育界と一体的に実施することはできるのか